資本市場の注目点に対する回答

株主・投資家の皆様との対話などを通じていただいた主な注目点と、日工グループの回答をご紹介します。

Q1 収益性

国内トップシェアを誇るAP関連事業で、なぜ十分な利益を生み出せていないのですか。

A

価格改定効果のタイムラグに加え、AP製品をBP製品と同一工場で製造しており、原価管理が複雑という課題がありました。コスト管理の高度化とメンテナンス収益拡大により、2030年に向け営業利益率20%程度の実現を視野に入れています。

関連するページ ▸ P35

Q2 成長戦略

2030年ビジョン、そしてその先に向けて、どのような成長を目指していますか。

A

M&Aによる事業ポートフォリオ拡大で6事業を展開する総合インフラ企業へ進化しています。2030年度に売上高700億円・営業利益率10.0%を目標に、アジア市場での成長とソリューション型ビジネスモデルへの転換を進めます。

関連するページ ▸ P31

Q3 資本配分規律

成長投資・M&Aの規律をどのように担保していますか。

A

投下資本利益率が資本コストを上回ることを基本条件に、取締役会が資本配分ポリシーを定期的にレビュー。宇部興機・松田機工など規律あるM&Aを実現しています。

関連するページ ▸ P24

Q4 事業ポートフォリオ

資本効率の低い事業には、どのように対応していきますか。

A

2026年度から事業ステージとROICを軸としたポートフォリオ管理を本格運用。取締役会がROICの推移を継続監督し、改善が見られない事業は撤退・縮小も議論します。

関連するページ ▸ P60

Q5 ガバナンス

ガバナンス体制の実効性を、どのように高めていますか。

A

監査役会設置会社から監査等委員会設置会社への移行も含め機関設計を検討し、社外取締役の経営関与を深化させます。指名報酬委員会の客観性向上や、役員報酬と収益性などとの連動も視野に入れていきます。

関連するページ ▸ P60

Q6 資本効率・PBR

「シェアが高いのに利益率が低い」という株式市場の見方を、どう変えていきますか。

A

利益率の低さがPBR1倍前後にとどまる主因と認識しています。エクイティスプレッド最大化や、自己資本比率50%以上を目安とした資本管理・自社株取得などを通じてROE10.0%の実現を2030年度までに目指し、収益力向上を伴う企業価値向上で市場の見方を変えていきます。

関連するページ ▸ P31

Q7 無形資産・人的資本

技術力や人的資本といった無形資産を、どのように企業価値へとつなげていきますか。

A

脱炭素・DX・グローバル展開に対応する技術開発を推進し、ベテラン技術者の暗黙知をAIで文書化するなど技術承継を加速。多様な専門性を持つ人材育成が競争優位の源泉となっています。

関連するページ ▸ P51

Q8 株主還元

株主還元と財務健全性のバランスを、どのように取っていきますか。

A

配当性向60%以上を基本方針とし、1株配当は2025年度に期初予想34円から40円へ増配し、2026年度は42円を予定しています。自己資本比率50%以上を維持しつつ、政策保有株式は純資産比率10%以下を目標に縮減を進めています。

関連するページ ▸ P23